

---

○議長（渡辺文彦君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 1時50分）

---

◇ 鈴 木 茂 孝 君

○議長（渡辺文彦君） 一般質問を続けます。

通告順位4番、鈴木茂孝君。

（2番 鈴木茂孝君 登壇）

○2番（鈴木茂孝君） 壇上より一般質問を行います。

変異株のコロナ感染者が急増し、静岡県でも予断を許さない状況が続いております。幸い伊豆半島は感染が広がっている状況にはありませんが、感染に最大限の注意を払いつつ、コロナとの共存の道を探って行かなければなりません。現在、町には多くの課題があります。しかし、このコロナへの対策は優先して進めていかなければなりません。各市町がコロナ対策という同じ課題に取り組む中で、各市町のリーダーの力量の差により施策のスピード及び内容に格差が生じています。今回は町のコロナに対する施策について迅速な詰め方ができているのか。また、コロナ後を見据えた今後の施策について伺います。以上で壇上からの質問を終わります。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 鈴木議員からの質問でございます。大きな一つ迅速な施策の進め方について。他市町に比べコロナ対応の施策が遅れているように思うが、何が原因と考えているかでございます。回答いたします。私は、コロナ禍における感染防止と町民の命を守り、暮らしや経済を支えることを第一に考え、これまでに事業所が新型コロナウイルス感染症のために、融資を受けた資金の利子全額を交付する支援をはじめ、事業所支援給付金の支給、プレミアム商品券や宿泊クーポン券による消費喚起、医療機関・介護サービス事業所への支援金、一人親世帯や大学・専門学校・高校生への給付金など66事業の感染防止対策及び経済対策を実施してまいりました。これらのコロナ対策は、他市町に決して劣るものではなく、迅速に対応してきたものと考えております。限られた職員の中でマンパワーの不足という課題もありますが、今後も課や係を超えた連携を図りながら、最善を尽くし町民のために業務にあたってまいります。迅速な施策の進め方

の二つ目でございます。町長決裁をもらうために毎朝、行列ができているが、この決裁方法のメリットはいったい何かというご質問でございます。回答いたします。現在、職員の決裁につきましては、毎週火曜日から金曜日までの毎朝、始業時間後の時間を決めて行っております。時間を決めて行うことは、職員の計画的な事業執行につながることであり、決して業務の停滞を招くものではないと考えております。また、決裁の際には、職員の説明を基に、内容を把握するとともに、毎朝の職員の健康状況を確認しております。なお、緊急の決裁につきましては、いつでも決裁をすることを職員には周知しております。迅速な施策の進め方について三つ目でございます。日中、岩科地区の住民宅をまわって、岩科診療所の説明をしていたというのは事実か。私は、町政を進めていくうえで、町民の皆さまの声なき声を聞き、人の意見に対し謙虚に耳を傾けることは何よりも大切なことであり、現場に出て直接対話することは、行政施策を検討するうえでも重要なものと考えております。町民や事業者の声を聞く中で、岩科診療所に限らずコロナ禍における町支援の説明など行ったことは事実であります。3月の施政方針でも申し上げましたが、私の政策のスタンスは一貫して「マーケットイン」という考え方があります。すなわち、町民の皆さまやお客様が何を求めているのか、どのようなニーズがあるのかを見極め、これを政策に反映していくことであります。今後も、町が推進する事業について、町民の声を丁寧に聞きながら、行政運営に活かしてまいりたいと考えております。次、大きな二つ目、コロナを見据えた今後の施策についてその一、移住推進協議会が、依然として全く機能していないが、移住定住推進の施策と今後のスケジュールはどうなっているのかという質問でございます。回答いたします。コロナ禍の中で、テレワークやワーケーションなど時間や空間の制約にとらわれることなく、働くことができる新たな社会環境への移行により、地方での生活が見直されてきております。松崎町としてもこの機会をチャンスと捉え、ワーケーション推進など、近隣市町と共に関係人口の増を図っておるところでございます。なお、移住定住促進協議会につきましては、今月中に開催し新たなメンバーの選定を含め、施策のブラッシュアップや実行スケジュールにつきまして、検討していく予定でございます。鈴木議員の二つ目の質問の中の二つ目、事業者が事業を継続していくために取り組む事業に対して、町独自の補助金制度を創設する考えはないかとの質問です。ご回答いたします。新型コロナウイルスの感染拡大により、宿泊業をはじめ飲食業などの観光関連事業者の皆さまは、観光客の大幅な

減少によって大きな打撃を受けており、一刻も早いコロナウイルスの収束を願っているところであります。町の産業の停滞は、地域経済に与える影響が大きいことから、これまで事業所支援金をはじめとした各種支援を、間断なく行ってきたところでございます。なお、議員ご質問の補助制度につきましては、商工会に各種支援制度が用意されており、商工会を中心に、事業者様のニーズを適切に把握しながらサポートする体制がとられております。また、町独自の補助制度の創設につきましては、限られた財源の中では、非常に難しい状況であるということをご理解いただき、ただ今申し上げました既存の制度を有効に活用していただくよう、周知してまいります。以上鈴木議員の質問にお答えしました。

○2番（鈴木茂孝君） 一問一答でお願いします。

○議長（渡辺文彦君） 許可します。

○2番（鈴木茂孝君） それでは先ず、迅速な施策の進め方について伺います。私は前回の議会の一般質問で町のコロナ対策の施策について伺いました。町長は今回、町は迅速に対応しているという風におっしゃいましたけれども、それからおよそ3ヶ月経っておりますが、まだ実行されてない施策もございますし、実行されるけれども、ちょっとスピードが遅いなというものがございます。それについてお尋ねしたいと思っております。先ず事業者への支援特別追加給付金についてお聞きます。前回3月の議会で町の支援特別給付金の対象外の方への、迅速な支援を求めました。新たに制度設計をして、準備をしていくという答弁をいただきましたが、目処としていました4月を越えて、ようやく5月25日に受付が始まりました。他市町は法人であるか、個人であるか。又は、事業収入が10万円以上もしくは、30万円以上というように細かく支援額も変えております。しかし、松崎町の待ちに待ってようやく出された支援策というのは、10%以上の減収額、減収だった事業者に一律20万円という非常に簡潔な施策でした。このような単純な支援策ならば、他の市町と同様に、2月中旬に支援策として打ち出せたのではないかという風に考えております。施策の最高責任者である町長にお尋ねします。他の市町より3か月以上遅れた上に、工夫の見られない支援策これは何が原因なのでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 大変厳しい指摘でございますが、私としては、町としては精一杯の実行だと思います。遅れているとも思いませんし、やはりこれについてはですね、単純だ

と言いましたけれども、やはりいくら以上の商売でもって、どれだけの売り上げがあってそれがどれだけ減ってるということはですね、厳密にやっていくと中々時間がかかるわけございまして、それについては、極力簡素化して事業者からニーズがあった・・・どうしてもうちの方は規定に当てはまらないというところを、酌みして実行したつもりであります。詳細については担当の方から申し上げたいと思います。

○2番（鈴木茂孝君） 他の市町はですね、2月にですねこういう細かいことやってるわけです。そして、それより後に出した松崎町が大雑把にということなので、これはまあ行政の怠慢と言ってはなんですけども、ちょっとそれに近いものはあるのかなと思いますし、こういうことやっていて、この事業者はいくらぐらいの年収ががあって、どれぐらいの利益があるんだというような蓄積というか、そういうノウハウが溜まってくんですけども、こういう松崎町のやり方であると、一律20万円っていう形で10%以上ですよってやると、何の事業者の情報っていうのも得られないと思うんですけども、その辺はいかがお考えでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 振り返りますと昨年の5月連休前に、私どもでは非常に迅速に実行をいたしました。それは非常に好評でした。そして、いつでも他市町と比較されるわけですけれども、これを比較するのであれば、1市5町としっかりと比較をしたいと思っています。そうすれば、私どもが遅れてるということは決してないと思います。そして、我々は町として行政としていろんなご商売やってるところがございまして、それを全ての行政業務実績等を把握することは、非常に大変だと思います。そういうことを把握するのは金融機関の仕事でございまして、我々は金融機関等と情報組みながら、またそれぞれの事業者さんと相対しながら話をしていく。それで精一杯ではないかと。それをやっていきますと、鈴木議員のおっしゃったことをやっていきますと、どんどん行政のやるべき仕事は増えてきます。そうすると職員の数も増えるでしょう。それがはたして良いのかと私は思うわけであります。

○2番（鈴木茂孝君） 隣町の話で申し訳ないんですけれども、西伊豆町はそれをやっておりまして、そして、例えばですね、何が困るかと言いますと、次に支援策をしたいときにこの事業者は大体これぐらいの金額を出してくるねっていうようなノウハウの蓄積が無いものですから、予算をいつまでも多めに見なければならぬというような話になっていて、本来であればきちっと適正な予算が取れていれば、他の施策に回すことができる

のに大雑把に取るものですから、やはりその部分がいい加減になってしまうと。その分他の施策に回せないっていうことがあると思います。細くおっしゃって欲しいということなので、言いますけれども、西伊豆町は、令和2年6月、3年1月までの間に1ヶ月以上の売り上げが20%以上減少していること。これが30万円です。河津町は、個人と法人で分けておりまして、法人が20万円、個人が10万円。下田市は、事業収入30万円以上これが10万円の給付金です。もう一つ事業収入が10万円から30万円の事業者は、これが3万円という風にきめ細かくなっております。これを2月の中旬に出しておるんですが、松崎町は、5月の下旬に出してきたものが、10%以上全員に20万円というような形でやっております。これはちょっと過剰と言ったら変ですけども、もっともっと適正な形で町民の方に配分できたじゃないかなという風に思いますけども、まあこれはこの辺で止めておきます。そして、次ですね。プレミアム商品券についてお聞きしたいと思います。2月中旬の新聞発表で町長は、プレミアム商品券の実証考えると。考えているというように話して、お話をしまして、4か月弱経ちました。この議会ではやく予算が出されますが、このように時間がかかった理由について町長どのようにお考えでしょうか。また、国の予算を使うため9月末までの使用期間と聞いております。町長の施策の判断の遅れが町の職員の業務をより過労にさせて、商品券の使用期間が短くなることで、効果が限定的になり、結果として町民にも迷惑をかけているとそういう自覚はございますか。

○町長（長嶋精一君） その自覚はまったくございません。詳細については担当課長から申し上げます。

○企画観光課長（深澤準弥君） プレミアム商品券につきましては今ご指摘があったとおり、新聞発表からだいぶ時間が経ってしまったことは大変申し訳ないと思っております。ただ、うちの方でプレミアム商品券発行して、実際に実施するということではなく、商工会の方で実は実施する状況になってございます。その商工会と町の方との調整にちょっと時間を要したことと、小切手の取扱について、金融機関との調整も実はちょっと時間がかかっておりまして、その件で今回の補正予算だという形になっております。もちろんの財政当局との調整もあったもんですから、そういった意味で今回、今議会において補正予算という形であげさせていただいてございます。

○2番（鈴木茂孝君） プレミアム商品券は初めてじゃないですよ。もう何回目なんで

しょうね。それでまたその調整に時間がかかるっていうのは、どういうことなのかなって思うんですけども、それはね、結局例えば7月に出たとしても、9月末なのでそんなに長く使えないということで、最大限買おうと思ったけれども、半分でやめとこうとか。そのような形になって、結局せっかく出すのに効果も半減してしまうということは考えられてもいますので、その辺を町長もしっかり自覚して、やはり迅速な施策の実行ということを考えていただきたいなという風に思います。次にですね、宿泊業者についての支援策についてもお聞きします。私前回の議会でお話ししましたが、その祭には長い目で支援を考えているという風に答弁をいただきました。しかし、今回ですね出た支援策っていうのは、以前と同じ施策であります宿泊者一人に対して一泊3,000円引きのクーポンの発行というものでした。コロナ患者が増えてきまして、警戒レベル5になっています。現在。このクーポンがいつから使えて、いつ宿泊業者にそのメリットが伝わるのかということが明確になってません。宿泊業者は、この6月、5月、6月にですね、税金の支払いがありまして、かなり財政的に厳しい状況にあるという風に伺っております。宿泊業者の支援策ということであるならば、このクーポン2,860万使うという予定であります。これを業績の合わせた宿泊事業者への支援金の支給に使うということが、最大の最も適当な施策であると考えますけれども、町長の考えはいかがでしょうか。町長お願いします。

(○町長(長嶋精一君) 先に担当課長からお答えします。)

○企画観光課長(深澤準弥君) 宿泊クーポン券につきましては、今回の交付金の関係で観光協会と協議をしまして、宿泊クーポン券をやるということに決定をしました。その中で前回と違うような形でやるために観光協会の役員の方々となんとかお話を詰めまして、今回も昨日までの間になんとか話をして、ただ来たお客さんに3,000円を引くといったような、前回の策としてはちょっと愚策であったということを自覚しておるということで、今回はいわゆる宿泊施設の方でパッケージ的にその3,000円を活かして誘客に繋がりたいという方向性で話を持っていくことになっておりまして、そういった方向での今回のクーポンっていう形で、前回の形とはちょっと違う形になってございます。

○2番(鈴木茂孝君) この他に宿泊者には、町内宿泊者向けクーポンってのがございまして、宿泊利用者へ飲食店や土産物で利用できるクーポン。これ500円分一人つきあげるとのことなんですけども、例えばですね、この3,000円と500円をくっつけて3,500

円を地域クーポンっての前ございました。その宿泊している日にち、もしくは次の日までに、その地域で使ってくださいというクーポン券がありましたけれども、これにもし変えていけば、必ず地域でその3,500円を消費しないといけないということで、これは地域にお金がかかり出回ってくるというような施策になると思うんですけども、それのご検討はいかがでしょうか。

(○議長(渡辺文彦君) 企画観光課長)

(○2番(鈴木茂孝君) 町長お願いします。)

(○町長(長嶋精一君) まず企画観光課長。)

(「町長、町長」との声あり)

(○2番(鈴木茂孝君) 町長が最終責任者ですよ)

(○町長(長嶋精一君) 実践的なことやってますからね・・・実務を企画観光課。)

(各所から発言あり・・・)

(○議長(渡辺文彦君) ちょっと待って・・・)

○議長(渡辺文彦君) 町長お答えできますか。できたらお願いいたします。

(「考えはないの?」「そうだそうだ!」)

(○町長(長嶋精一君) あの・・・ちょっと静粛にしてください。)

(○議長(渡辺文彦君) あの、ちょっとまず・・・)

(○町長(長嶋精一君) 議長)

○町長(長嶋精一君) 極めて実務的なね、話でございますので、企画の課長の方から答弁をいたしたいと思います。

○企画観光課長(深澤準弥君) 今鈴木議員からご指摘あった施策につきましては、Gotoキャンペーンの中で地域共通クーポンというのがありました。大変あれは好評でございまして、Gotoのキャンペーンと合わせてすごくお客さんが実際に来てございました。今後もそういった形でGotoについては、感染拡大地域を除いた中で動き出すような方向で、今国の方も動いているということでありますが、先ずは国の方はオリンピック絡みかなと思っております。そのオリンピックが7月20日ぐらいからということですが、その前にこの議会終了後に何とか誘客をできないかということで、民宿、旅館の方々からご意見いただきまして、今回の宿泊券と宿泊クーポン券による地元へのお金を落とせないかということで、お話をいただいているのが今回の実務的なものでございます。

○2番（鈴木茂孝君） 実務的なことで申しまして、最終的な決断は町長でございますので、今後のご答弁は町長でお願いしたいと思います。先ほどおっしゃいましたように、宿泊業者はかなり厳しいですから、はっきり言ってその宿泊クーポンが換金されて回って来るところを待ってられるかどうかと。この夏も厳しい状況じゃないかという風に思いますので、その辺をよくお考えの上、やはり宿泊業者が無くなってしまうと、納入業者もありますし、その辺の例えば来てご飯を食べてく、お弁当を買っていくってところに影響しますので、その辺はしっかりですね、守っていくというようなことをやっていただきたいという風に思います。

次ですね。ワクチンですね。ワクチンについての施策についてお聞きします。今月号ですか。広報松崎の町長室からこんにちでは、ワクチン接種に関しまして町には医師が二人しかいないから、致命的なハンデなので遅れているという風子書いております。二人しかいないというのは、初めから二人しか松崎町にいないわけですね。急に二人しかなくなったわけじゃないんです。二人しかいないんであれば、早めにスタートを切るべきと思いますが、松崎町は伊豆半島の他の市町に比べて、対象人数が最も少ないんです。3,037名です。西伊豆町は3,788名。東伊豆町にいたっては5,362名いらっしゃいます。当然医師の数も違いますが、しかし、他の市町より一週間遅れて松崎はスタートなんですよね。大体。一週間あれば他の町と同じような形で、7月末に終了できたと思うんですけれども、その辺がスタートが遅いっていうのはちょっと致命的なっていうようなことになってると思うんですけれども、これはどうして一週間遅れてしまったんでしょうか。

（「町長、町長」）

○健康福祉課長（糸川成人君） こちらの方につきまして、先ほどから何回も言っているとおり、医師の確保、2名しかいないってことで確保の関係の調整に時間を要したこと。また、通知自体はですね一番早く、接種券の送付しましたが、その間の発送するまでの間ですね、ワクチンの確保の状況が国を情報が曖昧でありまして、一体いくら確保できるのか、いつ確保できるのかというような情報が、なかなかはっきりしなかったのもございまして、開始時期を一週間遅らせたというような、状況的にそういうようなこととございます。ただ、ただいまのワクチンの接種の状況につきましては、診療所の協力を得ましてですね、7月の10日と7月の31日土曜日ですけれども、接種の方のご協

力をいただきまして、80%超える接種枠を確保しております。また8月の4日までには100%を超える接種枠を確保しておりますので、65歳以上の方が全て希望してもできるような状況になっているというところです。

○2番（鈴木茂孝君） 職員の方々は本当に非常に一生懸命にやってらっしゃる。休日を問わず一生懸命やってます。これに対してやはり、人的な配置ですね。それが出来なかったのかなというところが不思議なところと言うか、私も悔やまれるところであるじゃないかなという風に思います。同じくですね、その広報まつぎきのところですね、池田先生や西伊豆健育会の病院の後援をお願いしたという風に話がありますけども、これは町長いつのことを指しているのでしょうか。

○議長（渡辺文彦君） 町長お答えできますか。

○町長（長嶋精一君） その前にですね、これはあの議題として前に話があった案件ですが、答えますけれどもね。これは予告通知のあった案件ではございませんね。

（○2番（鈴木茂孝君） 関連質問です。）

関連質問ですか。関連質問なら関連質問として議長に許しを得てから関連質問してください。今の答えは健康福祉課長から申し上げます。

それからもう一点議員の皆さんはね、「町長、町長」っていう話は止めてください。

○議長（渡辺文彦君） 町長、その辺の発言はやめてください。

健康福祉課長、今の件町長に代わってお答えできますか。いいですか。

（○2番（鈴木茂孝君） 町長にお願いしているんです。）

○議長（渡辺文彦君） 良いですか。

（○2番（鈴木茂孝君） 町長が一番認識していると思いますので。お願いします。

町長が書いた文ですから。）

（○町長（長嶋精一君） いつからってこと。）

○議長（渡辺文彦君） もう一度質問お願いいたします。

（「町長今のが反問権ですよ」）

○2番（鈴木茂孝君） 広報まつぎきの町長室からこんにちでは、池田先生や西伊豆健育会病院さんの応援をお願いし、快諾をいただきましてワクチンが接種が間に合いますよというようなお話が書いてあります。これはいつお話をされに行ったということをお聞きしております。

○町長（長嶋精一君） 医師が少ないということは、今始まったことじゃないということは、その通りございまして少ないわけです。少ないからこそ、今困ってるんですね。それで担当課の方が賀茂医師会の池田先生にお願いして快諾を得たと。いつかということは私は把握しておりますせん。それから西伊豆健育会の方も、私と健康福祉課長と担当の方と西伊豆健育会の方に出向いて、医院長さんと話をして「よし分かった」という風な形になったわけです。その日取りは今いく日ということは覚えておりませんが、そういうことは事実です。そういうことは、何かございますか。失礼ですけど・・・。

○2番（鈴木茂孝君） そういうことってよく分かりませんが、例えばですね、12月中旬であるのか、1月中旬であるのか、4月下旬であるのかというようなお話を伺っております。

○健康福祉課長（糸川成人君） 医師が2人しかいないということの現状は当然うちの方も把握しておりますて、もう1月頃だったと思いますけども、賀茂医師会の方に協力要請ってことで打診をしていたところでございます。そうした中でですね、いろんな協議ありましたけども、池田先生の方の協力は得られるということで、第1クールにつきましては、池田先生と中江先生の集団接種、石田先生の個別接種ということで、進めさせていただきました。ただ、国の方が急に7月末に終了させろというようなことを指示してきたものですから、こちらにつきましては連休前にですね、西伊豆健育会の方にお願ひに行きましてですね、協力いただきまして、6月の28日から始まる第2クールにつきましては健育会の方からの2先生とあと池田先生、中江先生、石田先生の協力を得まして、週3日3レーン医師3名体制でですね、接種をすることが確保ができたというところでございます。

○議長（渡辺文彦君） 鈴木君に申し上げます。関連質問は許可を得てからお願いいたします。

○2番（鈴木茂孝君） もう少しワクチンについて質問したいんですが、よろしいでしょうか。

○議長（渡辺文彦君） はい。

○2番（鈴木茂孝君） 今のお話、詳しいお話ありがとうございます。本来であれば、このような詳しいお話は町長の口から聞いたかったなという風に思います。私がなぜこのようなことを言うかと言いますと、西伊豆町はですね、12月中旬にもうワクチンどうしま

しょうかという話を西伊豆病院さんの方としております。松崎町は、1月中旬に西伊豆病院の方からどうでしょうかというお話があったという話です。そして、その際に松崎町としては、賀茂医師会に・・先ほど言われた賀茂医師会にお願いするので、結構ですという風に断ってるんですね。やはり医師が2人しかいないということが自覚してあるのであれば、どうぞ喜んでやりますと。西伊豆町は、火、水って曜日を松崎町みたいにかけていたんですよ。しかも、医師が二人用意して待ってますということでやってたんですけど、それを松崎町は、結構ですと断っておきながら、後でやっぱり医者が少ないから遅れるんだよねって言うのは、ちょっとこれは行政のミス、町長の怠慢であるという風に思いますけれども、その辺はどういう風にお考えでしょうか。

○町長（長嶋精一君） そのような経緯があったってことは、残念ながら私は知りませんでした。ただ言えることはね、担当の方できめ細かいことを計画を立てて、それを実行に移すと。そこで不具合があったらトップが出ていくというような構造が一番私は望ましいと思います。したがって、それについて、そのような形で今進んでいると思います。担当の方も課長をはじめとして、昼夜を問わずやっておりますのでね。そのところは松崎町として、西伊豆町より劣っているということとはございません。しかも、やっぱりお医者さんが少ないということは事実でございますから、それをなんとかクリアしようと思って、努力しているということでございます。それを議会の議員の人たちが、人たちの方でね、目的を変えて私どもを責めるということじゃなくて、今一生懸命やっていますから、そこら辺は分かっていたら、協力をしていただきたいなという風に思います。

○議長（渡辺文彦君） ちょっとお持ちください。健康福祉課長に確認させていただきたいんですけども、先ほどの鈴木君が西伊豆病院からの申し出があったってことに対しての答弁をお願いいたします。その辺確認しているかどうか。確認したいんですけど。

（「議長それおかしいら、議長」）

○健康福祉課長（糸川成人君） やはり医師の派遣をしていただく経過としましてはですね、医師会というのはございますので、そちらの方にまずは協力をお願いするというようなものが全てというこでいたわけです。賀茂医師会の方には健育会病院の方にも加盟をしている先生ももいらっしゃいますので、そういう話は通じるかなと思います。ただ、健育会病院の方で断ったというようなお話されましたけども、それにつきましては、いろんな条件を提示された中で他の医師の先生との条件を比べた中で、そういうことをや

ったということで、単純に断ったということでないことはご理解願いたいと思います。

(○7 番(藤井 要君) 「町長に報告あるんだろ」)

(○町長(長嶋精一君) ちょっとお・・藤井君ダメだそれは。)

○2 番(鈴木茂孝君) これはね平常時であれば、今のような町長の話しはもっともと思うんですが、これは緊急時です。ワクチンを早くやってほしいというようなことですから、やはり町長も、どういうことだよと。自分ができることなら何でもやるからなということで、やはり一緒に歩幅を合わせてやっていくというのが重要じゃないかな。その中でやはり課長も、本当に日夜一生懸命やってる中で、余裕はない。その中でやってますから、どうしてもそういうような齟齬と言うか、話の行き違いっていうのは、生まれちゃうんじゃないかなと思うんですけども、それについては課長責めるんじゃないくて、やはりやり方が悪いんじゃないかと。例えば他の市町では、小さい町はですね、例えばですね、会場を細かく公民館等に分けまして、お医者さん達が移動します。そして、その際の予約というのは、地域ごとに区長さんが取りまとめると。そういうなやり方をしていれば、電話が繋がらないですとか、じゃあバスはどういう風に配置しようかっていうのものはなかったはずですよ。その辺のやり方というのを、一生懸命やっては分かりまんですけども、どのようにしたら効率よくできるんじゃないっていう方法を、先ず考えるっていうことが重要なんじゃないかなという風に思います。そして、これ以上やってもあれなので。次にまいります。

(○町長(長嶋精一君) 議長 いいですか。)

(○議長(渡辺文彦君) 良いですか。発言を許してもよろしいですか。)

(○2 番(鈴木茂孝君) いや時間が無いので・・)

(○町長(長嶋精一君) 発言させて。)

(○議長(渡辺文彦君) 次行きますか。町長お待ちください。もう次行きます。)

次の決裁方法についてちょっとお聞きしたいんですけど、職員の方が効率よく仕事をするためにやるという話ですけども、特にこのような期限を設けなくても、職員の方々が一生懸命やっておられます。そして、私が問題にしてるのは、決裁を待つ間ですね。30分から1時間。朝ですね。課長やその係長さん達がずっと待っていると。その間は仕事ができないわけです。それが問題であるという風に言ってます。その辺をやはり、もし仕事をしていればということで賃金に換算しますと、火曜日から金曜日までやってますよ

ね。これを全部足しますとひょっとしたら一人分ぐらいの賃金に換算する量のことを無駄にしてるかもしれない。そのようなことを考えてます。それから、火曜日から金曜日まで、毎朝決裁やってるというようにおっしゃいました。例えばですね、金曜日の午後に決裁が必要になったらどうしますか。火曜日まで待つんですか。そして、急ぎの時は決裁を受け付けるという話でしたけれども、急ぎの時に決裁を受け付けるっていう仕組みがあれば、であればですね、町長在庁時には、いつでも決裁を受け付けるという風に変えた方がいいんじゃないでしょうか。ひとつ提案があります。これ職員を働きやすくするというのも、町長の大きな仕事だと思います。例えばですね総務課長。無記名で決裁方法について、今のままで良いのかそれとも、町長の在庁時には、いつでも決裁を受け入れ受け付けるという方法が良いのか。職員に対して無記名でアンケートを採っていただきたいんですけども、これによってどうするか。本当に町長が思ってるように皆さんやりやすいのか。それとも、本当はちょっとやりにくいなと思ってるけども、町長の命なので、こういう風にやるしかないなと思ってるのが分かると思うんですけども。それについて総務課長是非お願いしたいんですが、いかがでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 鈴木議員のご質問ですが、決裁の方法ですね。これについては、やはりそれぞれやり方というのはありまして、どれが正解であるかという答えは全国の自治体を見ても様々でございます。ただ、私どもは職員が働きやすい職場環境作りをすることは当然のことであると思ってますので、今回この時間を決めることが、当然その時までには業務、事務を終わらせるという職員の自覚って言いますか、そういったことにも繋がっていきますので、ここは計画的な事務執行に繋がるという町長の答弁だったと思います。それから、金曜の午後決裁が出てきたらどうするか。それは当然決裁を受けます。いつ何時、緊急のすぐもらわなければならない決裁とういうことはありますので、それは受けるということで考えております。それから最後無記名でアンケートを採ったらどうかというようなご質問でありましたけれども、町には職員組合という組織もございます。職員組合もありますので、そこで意見を聞くということは、一つの方法であるということは考えております。そこは検討してまいりたいということでございます。

（○町長（長嶋精一君） 議長・・・議長・・・議長。ちょっと関係して・・・ちょっと）

（○議長（渡辺文彦君） ちょっと町長・・・）

○2番（鈴木茂孝君） ありがとうございます。町長の任期も短いことですので、なるべく早くアンケートを採っていただきたいなという風に思っております。次にまいります。3月にですね、議会にこんなメッセージが届きました。町長が昼間一件一件回って、岩科診療所を造ることを説明しながら名刺を置いていっています。これは町の広報誌で知らせばいいんじゃないですか。何故名刺を配って歩いてるんですかというものです。更に名刺を配ることは、町長の仕事ではない。町全体のために町長としてやるべき仕事のために、時間を有効に使ってほしい。これは本当にもっともな意見だと思いますけれども、町長、この町民の方のこのご質問に答えていただけますか。

○町長（長嶋精一君） 先ほど藤井議員かな、の質問にもあった通りに、私は名刺を配るために一件一件あるいは回ってるわけではございません。あくまでも先ほど言いました、ニーズはどこにあるのか、どういうことを求めているのかということを発掘して、それを行政に繋げていきたいと。そのように真剣に思っております。私も議員を2年と半ぐらいやりました。そこで、鈴木議員の話等聞いておりますと、例えば町長の批判、あるいは他市町との比較、それだけをやっておれば、こんな楽な議員はございません。私は議員の時から町民の困った人があったら、それは本当に助けてあげたいというようなことで、時間とお金を時間とお金、体を使ってやってやりました。ですから、私の方はさっき言いました通り町民のニーズを聞き、それを施策に活かすということであります。それのみでございます。

○2番（鈴木茂孝君） それはですね、平常時であればほんとにいいかもいれませんが、このコロナの時期ですから、昼間ですね、高齢者のとこへ一件一件歩くというのはコロナの流行っている今ですね、いかがなものでしょうか。

○町長（長嶋精一君） コロナの時に一件一件回っているってことではございません。いつでも回るということじゃなくて、コロナに限らず回るということじゃなくて、大体は自分の時間のあるときには、ニーズを聞きながら回っております。しかし、それにはちゃんとした目的を持ってね、やってるわけでございますので、何でそういう風な高齢者のところに行ってる。高齢者に限らずいろんな情報は得たいわけでありまして。これ気をつけながら当然回っております。

○2番（鈴木茂孝君） コロナの時期にそれをやらなくていいんじゃないかというお話でして、回ることはいいですけども、その辺の先というか順番をですね、先ずコロナ対策を

優先、その後に町民の声を聞くって言うような形にしていかないと、やはり決裁の問題であつたり、職員の方がもう本当に仕事が忙しすぎて、大変という風な形になりますので、その辺はちょっと考えていただきたいなという風に思います。そしてですね、岩科診療所を造りますよという風におっしゃってるんですけども、岩科診療所というのは建物、それから診療機械、職員の給料、それから赤字の場合の補填、これまで町で支払うことになっております。赤字の概算額が先ほど藤井議員がおっしゃいましたね。7,300万円。5年でですね。ただ、これは前の話だと思いますけども、今はちょっともう1回、この新型コロナで影響を受けているので、これでは足りないんじゃないかということで、もう1回出すよということで、その数字を待っているところだと思うんですけども、この数字を待つことなく岩科の方々に診療所を造るっていう風に言うってことは、この提示される赤字額がいくらであっても、町長はこれを進めようということですか。

○町長（長嶋精一君） そのような細かい話は一切しておりません。ただ、設置条例というのはできましたわけですね。設置されたわけです。岩科に造るというのはもう宣言したわけですから、それについて話をすることはありました。しかし、岩科の診療所の話ばかりをしてるわけじゃございません。先ほど言いましたとおりに、鈴木議員の話してることがよく分かりませんけれども、今静岡県では医者が足りないということ。そして、賀茂郡下も特に医者が足りないという風に、先ず着眼大局という言葉がございますが、先ずそれを最初から選んでいただきたい。それに対して、じゃあどうすればいいのかと。どうすれば町民がコロナ渦というところで、細かいところに入っていただきたいなと思います。

○2番（鈴木茂孝君） 財源に我が町は限りがあります。診療所に多くのお金を使えば、当然住民サービスは低下しまして、水道料金やごみの収集料金などの値上げっていうような形も考えられます。それから先ほど他の議員の方で話したけれども、コロナでこのように世の中変わってしまっても、コロナ前に進めていた診療所はやるんだというようなことであれば、町長は町のリーダーとして、臨機応変さに欠けるという風に言わざるを得ません。今回のコロナ対策私は遅れてると思っていますが、これは長島町政がきちんと機能していない。つまり、朝行列して決裁を受けたり、なかなかその話がこんな大切なワクチンのことなのに、課長と町長の間で話がうまく通っていないようなことが起こったり、うまく機能していないという風なことを言わざるを得ないんですが、その辺につ

いてはいかがでしょうか。

○町長（長嶋精一君） どういうことでそういう風な議論になるんですか。

（「そのまんまじゃないですか」）

どういう議論なんですか。誰に聞いて、あのね、コロナ対策、今喫緊の課題は7月末までになんとか65歳の高齢者の接種を終わりたいということで、みんな一生懸命やってるわけですね。それに対して議会の人達も、理解をして頂いて応援をしていただく。そういう風な姿勢を見せてもらいたいんですよ。だから、賀茂医師会に交渉に行ったりですね。あなたがたもやってもらいたい。我々はちゃんとやりました。町長として職員が一生懸命やってるといえるのは分かります。しかし、コロナの対策と決裁の行列といたいという関係があるのか。私には分かりません。どういう関係があるのか。そういうことをですね、やってる時間があつたならば、逆に言いますけども、町民をよく回ってください。

○2番（鈴木茂孝君） 町民の方を回ってくださいというようにありますけども、今やはりコロナが言われてる中で、うちの地区なんかはまだ常会を始めていません。ずっとやっていません。そのようなこともありまして、中々町民の方のお話を伺うというのは難しいですが、今はSNSがありますので、その辺でやりとりをしております。先ほどどうして遅れているのか分からないという風な話があつたんですけれども、そこがわからないから遅れているし、そのような決裁方法を探るんじゃないかなという風に思います。町長の前務めていた銀行ですけど、そちらの方に聞きましたら、まだそんなことやってるんですかと。もう私たちは電子決裁ですよ。そのような形とってますよ。隣の西伊豆町も電子決裁にしようという風にしております。その辺をやっぱり時代の流れていきますか、それもしっかりつかんでやってほしいなという風に思いますし、私たちは、職員の方をただ避難するだけではなくて、こういうやり方をとれば、もう少し楽にできるんじゃないですかというの提案をさせていただいているという風な話です。次ですね。

（○議長（渡辺文彦君） 鈴木君、時間です。）

5分延長をお願いします。

前回の議会で私言いましたように、松崎町の子供の数というのは激減しております。そして、コロナ渦におりまして、地方移住に目が向けられております。松崎町もゼンリンさんに委託をしまして、109件ですか。もうそのまま使えるよというような、空家が

あるという風な形で初めて知りましたが、そんなにあるんだなというのが実際に思ったところですけども、その中で移住推進協議会の役割というのは非常に高まっております、ただ、それをですね、町長は議会を会議を今月中に開きますと。そして、スケジュールを決めますという風におっしゃいましたけども、どこがやるんだと。誰がやるんだと。先ほど高柳議員の話もありましたが、どこが汗をかいてやるんだと。これ以上、町主導でやるって言うのはかなり難しい状況だと思うんですけども、その辺をどのように考えてらっしゃるのかをお願いします。

○企画観光課長（深澤準弥君） 移住定住促進協議会につきましては、以前も質問がございまして、一応立ち上げてはいるんですけど、ご指摘のとおり実際に今会議を1回、研修会を1回ってというような状況でございます。今月に入りまして、この議会終了後今月中にですね、一度メンバー等の見直しも含め、今言ったような形の動かし方、もしくはスケジュール感も含めて、見直しが必要と判断をさせていただきまして、先ずは今の現状の中でいくと企画観光課の私どもの方で、旗を振らせていただきまして、その中で今ご指摘があったように、痒いところに手が届くような動き方ができるように進めていきたいと思っていますので、また色々とそういった部分でも、町民の皆さんの意見とかもしくは関係している皆さんからのご意見を収集しながらですね、いろんな形で何段階かに分けた形での組織体型図のちょっと今青写真で作ってございますので、またそちらの方をお持ちいただいて、今月中に開催させていただきたいと思っております。

○2番（鈴木茂孝君） やはり企画観光課の方見てますと、かなり業務を非常に忙しい中で、少しでもですね、その辺軽減をしていく。やっぱり課長としてはすごい大きな役割だと思うんですね。職員が動かなくても、できるような仕組み作りというのに、先ずは注力してもらって、自分たちが実際に手を動かさなくても、その辺が進んでくような形の仕組みを作っていただけたらなという風に思います。それからですね、その最後の町の事業者が事業継続していくこと町の活性化に繋がるのではないかなというような考えをしてるんですけども、下田市はですね、中小企業販売力強化支援事業っていうのがありまして、事業者がホームページやネット販売を行うための費用というような助成をしています。そして、先ほど町長がおっしゃられたように、商工会に行けばですね、国の小規模事業者補助金っていう制度がございます。ただ、やはり慣れてない方には申請書類が煩雑であったり、審査にもかなり時間がかかってきます。そこで松崎町におきましては、事業

等支援金というのございます。300 万円ですかね。200 万円予算を持ってると思うんですけど、ここ数年ですね、やっぱりコロナもありまして、なかなか新規の事業というのはできてないってことで、計上しては流れてという形でここ数年やってる状況だと思うんですけども、そこでですね、この予算を町の事業者が事業継続してさらに取り組む事業。例えばパンフレット制作であるとか、新商品開発ですとか。そういうものに補助をして、そして、書類も本当に A4 1 枚ぐらいの簡単なものにして、事業者が新しいことにチャレンジしやすくする。このような形の仕組みを作っていけば、町で例えばそれが 10 件動いていけば、かなり町としても、いろんなことをあちこちでやっているんじゃないかというようなことを町民の方も思って、コロナなんだけども皆さん頑張ってるなという風な形の印象付けられんじゃないかと思いますので、その辺を是非検討していただきたいなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○企画観光課長（深澤準弥君） 町の事業所の支援ってことは大変重要な問題となっております。今ある事業所自体の事業継承についても、いろんな課題がありまして、継承者、いわゆる次の次世代の担い手が不足しているっていう状況も多々ございます。このままでいくといわゆる事業者数が松崎町の将来見越したときに、激減してしまう恐れがあるというところでございます。今言ったような形での事業支援については商工会も含め、いろんな形で議論を進めながらですね、是非そういった形で進めていければと考えてございます。特に事業継承につきましては、今までは家族相続で、家族でやらなければそのまま閉めるといったことが、常態化してございますが、今後こういった過疎化が進み、少子高齢化が進む地域においては、新たな身内以外の事業継承というものも大変重要になっておりまして、伊豆半島でも清水町とか長泉町もしくは三島辺りでいくと、そちらの金融機関が事業継承の完全な窓口を作ったり、下田市でも商工会議所がそういった事業継承のいわゆる仲人的なもの担っていたりといったところがございますので、そういった方向も今後検討していく必要がほんとに急務であると考えてございますので、そういったことも、是非いろんな関係各位と検討しながら進めてまいりたいと思っております。

○2 番（鈴木茂孝君） そういったね、雲見の方でもここ連休終わってからですか。何件か廃業ってところも、3 件ですか。ございますので、やはりそこに廃業していて廃れていくっていうんじゃなくて、逆の目で見ますと、入って余地があるという風に考えて、

そこは可能性を見出していくっていうような形でやっていただきたいなという風に思いますし、新規でやっていく企業支援金よりも、今の時代ですと、コロナでやっぱりダメージを受けた自分たちの経営をもう一度立て直すんだというような形のものを町が後押しするというような形で、ただ、それについてはなかなか書類も難しいことでしょうし、町の方で簡便な書類でありますよというような形の補助金があれば、非常に皆さん助かり、町としても活性化していくという風になると思いますので、是非ご検討をお願いしたいと思います。まとめとしまして、コロナ対策私は遅れていると思っていますが、町長の判断の遅れ、そして、時間の取れる決裁方法、コロナ対策より自分の公約である岩科診療所の設立を優先させるという、優先順位の間違いにより、町政がきちんと機能していないと。そういうことの現れと考えます。移住定住促進も2年前に私がこの議会で提案した移住促進推進協議会っていうのはありましたが、言葉だけで、まったく進んでおりません。先ほど課長言われたように、1回の会議と1回の研修会、2年でですね。というようなことがありました。今後やはり着実な施策の実行が求められてきます。そして、地域の企業者に活気をもたらすために、町独自の補助金制度の創設を是非検討していただきたい。以上を速やかに検討し、実行されるようお願いしまして、一般質問を終わりといたします。ありがとうございました。

○議長（渡辺文彦君） 以上で鈴木茂孝君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午後 2時52分）

---